

令和3年度第2回兵庫県立図書館協議会 会議録

1 日時及び場所

令和4年3月22日(火) 10:00~12:00

2 出席者

協議会委員 角本会長 藤井副会長 太田委員 川石委員 齋藤委員 崎野委員
船越委員 三浦委員 森玉委員

教委事務局 社会教育課杉谷課長 澤井主任指導主事

県立図書館 村上館長 井上次長
小野山館長補佐兼総務課長 谷口利用サービス課長 前川ふるさと・資料課長

3 議事

図書館より、「兵庫県立図書館運営状況」(資料1)、「兵庫県立図書館中期運営方針」概要(資料2)「令和4年度 県立図書館の取組」(資料3)、「令和4年度 県立図書館展示・研修・講座等年間計画表」(資料4)に基づいて説明。

- (委員) 新しい知事になったことで、予算に関する考え方、状況に変化はあったか。
- (図書館) 特別に削られたということはなく、変わりありません。
- (委員) 資料の蔵書数の増減について、減少しているのはどのような要因か。
- (図書館) 書庫の確保のため、図書の除籍を行ったものです。
- (委員) HAL ネットの「機能拡充」とはどのようなことか。
- (図書館) 検索システムで、選択肢が増加しました。令和3年度は養父市が新たに図書館となったため、追加されて、増加しました。
- (委員) 新しくできた談話室(雀庵)は、誰でも利用可能なのか。例えばベビーカー連れの人も利用可能なか。
- (図書館) 誰でも利用可能です。
- (委員) 雀庵は現状はどのような利用者が入って、どのような使われ方をしているのか。
- (図書館) 現状では、特定の層が決まっています。2階には、絵本のある親子読書室があるが、談話室は、特に子どものための環境が整っていません。
- (委員) 除籍について、文化財的価値のあるものもあると思うが、データ化できるものは、データ化していけばよいのでは？また、昭和の企画展示をしているが、ガードマンのいない状態で、物を持って行かれたりしていないのか。
- (図書館) 除籍について、郷土資料は手を付けていません。一般図書のうち重複のあるものや、行政機関の送ってきている資料等を中心に除籍しています。昭和の企画展示について、コレクターの職員のを展示しています。現状無くなった物はありません。
- (図書館) 貴重なものは、展示ケースに入れています。また、BDS で音が鳴るようにする対策も一部の展示品で行っています。
- (図書館) デジタル化について、古地図等保存のために現物も保存しつつデータ化していています。文化財的価値のあるものは、歴史博物館や考古博物館に要否を照会し、必要なものは移管して、県全体としては、資料が存在する形にしています。
- (委員) 蔵書数が全都道府県中で最下位47位であることを確認していたが、調べると資料費予算も47位である。鳥取県と比べても、人口は10倍なのに、資料費は5分の1である。また、神戸市は全国の政令指定都市で3位であるのに対し、あまりにも落差がある。予算額を増やすことが喫緊の課題であるように思う。
- (図書館) 全都道府県の現在の平均は5,000万円台、兵庫県の平成初期は1億円くらいで、現在よりはるかに多いものでした。
- (図書館) 阪神・淡路大震災後の県債もあり、厳しい財政状況が続いており、県全体で行財政改革を行っている中、元のような予算額に戻していくのは、かなり厳しいものがあります。そのような中、資料の「質」の充実を図っていきます。利用者の直接のリクエストにも応え

ていきます。

- (委員) YouTube 配信について、兵庫県下の図書館の見学が出来るような動画配信や、国立国会図書館の見学が出来るようなアイデアはどうか。また講座について、学生の論文の書き方など、調べ方の講座はどうか。
- (図書館) YouTube 配信については、現状は講座の配信などごくわずかのみです。今年度はTwitterを発信したので、来年度はYouTubeに力を入れたいと思います。論文の書き方までは考えていません。
- (図書館) 学校サポート講座の中で、要望があれば出張等で対応します。
- (委員) 例えば、明石公園の木の伐採の話など、ネタやトピックスは多くあると思う。視聴者が興味を示す動画が関連付いて紹介されるYouTubeの機能は素晴らしい。
- (委員) 資料2には、「外部資金の確保」という言葉が出てくるが、「資料3」に出てこないのは抜け落ちているのではないか？クラウドファイディング等を検討してみてもどうか。また、図書館職員の研修の評価指数は、「参加人数」だけでいいのか。
- (図書館) 来年度は、「望ましい基準」に則って運営方針を見直しをすることとしており、研修の指標に関して、どのような指標がとれるかは検討していきたいと考えています。ただ、市町立図書館の職員の研修については、設置者が市町でもあり、どう評価するか難しい点もあると思います。
- (図書館) 学校サポート講座の対象は高校生限定であるのか。
- (図書館) 限定はしていません。しかし実際は高校生が多いです。小中学校生のための資料はあまり収集してないし、小中学校は市町立教育委員会の管轄下であることもあります。
- (委員) 「要望があれば」ではなく、積極的に働きかけてはどうか。学習指導要領の「総合的な学習の時間」の中で、高校では「探究活動」が増えていて、それは調べ学習がベースになっている。中学生の中には、高校生向きの本が読める生徒もいる。社会教育課と高校教育課が連携して、学校サポート講座にあるように、学校で実施される研修会に職員をより積極的に派遣するよう働きかけてはどうか。
- (図書館) 高校の読書活動について、委員のおっしゃるレベルまで達していません。第3期兵庫県教育基本計画を推進し、STEAM教育等、学校現場も多様化しているということも考慮し、高校教育課や各学校へPRしていきます。
- (委員) 行政職員へのサービスについて、図書館職員(司書)に対する理解、存在感をアピールして、図書館を中央に位置づけていくことで、予算取りもしやすくなるのでは。しかし、図書館職員の研修が昔から変わっていない。今は、電子資料に関する研修を行うなどして、いろいろな資質を求められることに対応してほしい。
- (図書館) 行政職員に対する企画立案のための資料をそろえることは、重要だと考えています。しかし、本当に必要なときにすぐそろえることは難しく、タイムラグが発生するという課題もあるので、現在検討中です。
- (図書館) 研修について、図書館協会や県庁職員にアンケートをとっています。
- (委員) こちらから新しい視点を提案するのも、県立図書館の役割の一つである。
- (委員) 「絵本の福袋」に関して、絵本は人気の高いものでないと、再発行されない。そういったものも保存して行ってほしい。

図書館より、新たな「基本的運営方針」の策定について(資料5)に基づいて説明

- (委員) 県立図書館は、市町を助ける役割を果たして行ってほしい。
- (委員) 県立図書館が施設として理解してもらえるように、また予算増額されるように、応援団の育成が必要。
- (委員) 旧明石市立図書館の建物はどうなるのか。
- (図書館) 期限が来たら、明石市は取壊して更地にして県に土地を返すことになっています。
- (委員) 遠隔地に住む利用者のためにも、遠隔地と感じさせない遠隔地サービスをしていくことが重要。
- (委員) 図書館の努力は感じる。しかし入館者が増えない現状がある。隣の旧明石市立図書館の雰囲気は良くない。定期的に人がやってくる環境ができれば良い。
- (委員) 図書館の図書館として、市町立図書館と連携して、後方支援をすることが重要。図書の専門家として何をしているのか、何を取り組んでいるのかということを含めて、もう少し理解が得られるように努力するべき。

- (委員) 運営方針を公表することは法的に定められているのか。
- (館長) 法的に定められた義務は無く、「望ましい基準」に則って作成します。公表すべきものであると認識しています。
- (委員) 策定にあたり、市町立図書館からの意見聴取も行うべき。
- (委員) 今日は幅広い意見が出たと思う。